

所報

No. 38

平成3年11月

広島市教育センター

豊かな心



広島文教女子大学教授 倉田 侃 司

「バッグの口が 開いていますよ」

中年の女性とエスカレーターに乗り合わせた時のことである。下から見ると、バッグの口が大きく開いているではないか。一瞬、どうしようかと迷ったが、エスカレーターを降りる際、小声で耳打ちした。それが冒頭の言葉である。ところが、その場を離れる私に対して、彼女からの言葉は聞けなかった。

いま、「豊かな心」が問われている。現実には、豊かでない心がいっぱいであるから、反対のものが求められるのであろう。さきの例を手がかりに「豊かな心」に迫りたい。

〈自他をともに生かすこと〉

豊かさは、相手とのかかわりの中で具現化するものである。自分のために相手を利用するのは、豊かさではない。逆に、相手のために自己犠牲を強いられるのも豊かさとはいえない。自分と相手が、ともに快適に生きる方途を捜し出し、それを実践するところに豊かさがある。

最近、相手を意識さえしようとしないう現象の何と多いことか。名前を呼ばれても返事を

しない、授業中の私語は、その例である。

〈自然と対話すること〉

まずは、動物や植物との対話である。それには、山や海へ出かけなければならないのかということ、必ずしもそうではない。近くの草木や虫などを観察することで、対話が成り立つ。対象を漠然と見るのではなく、視点を決めて注視すれば、それまで気づかなかったことを発見するであろう。図鑑などの参考書はその後でよい。

次には、自然現象そのものの変化を敏感に感じ取れるようになる。これもまた、自然との対話である。

〈新しい自分を発見すること〉

以上のことから考えるに、「豊かな心」とは、行為の主体者としての自分を、客観的に眺めることのできる「ゆとり」ではあるまいか。たとえ、多忙な毎日を過ごしていても、他とのかかわりを通して、新しい自分を発見し、そういう自分をいとおしく思えるようになりたいものである。だから強制されるでなく、だれからほめられるでもなく、まさに自分自身のために。

特集 豊かな心を育てる教育

豊かな心を育てる体験

共同研究「豊かな心を育てる体験的な活動に関する研究」(第1年次) から

子どもは、日々の生活の中で、人や社会や自然とかかわり合いながら、豊かな心を培い成長する。ところが、今日の子どもの実態をみると、人や社会や自然とかかわる生活体験が豊かであるとは言いがたい状況でもあり、心豊かな人間に成長しているか疑問である。新学習指導要領においても、豊かな心の育成が求められ、その育成を促す方策の一つとして、体験的な活動が見直されるとともに重視されている。

本研究は、小学校の平素の教育活動の中で、身近な自然とかかわる体験的な活動を有機的に取り入れ、豊かな心の育成に資する指導の在り方を探ろうとするものである。なお、小学校の先生方8名を研究協力員とし、研究をすすめている。

自然体験と豊かな心

子どもの回りから豊かな自然が減りつつある。しかし、身近なところをよく見ると、普段の生活の中で触れ合うことのできる自然は、草花、虫、土や水、星、雲等々、意外に多く数えあげることができる。道端に咲いている花に「ああ、きれいだな」と心をとめ心を動か



図1 豊かな心

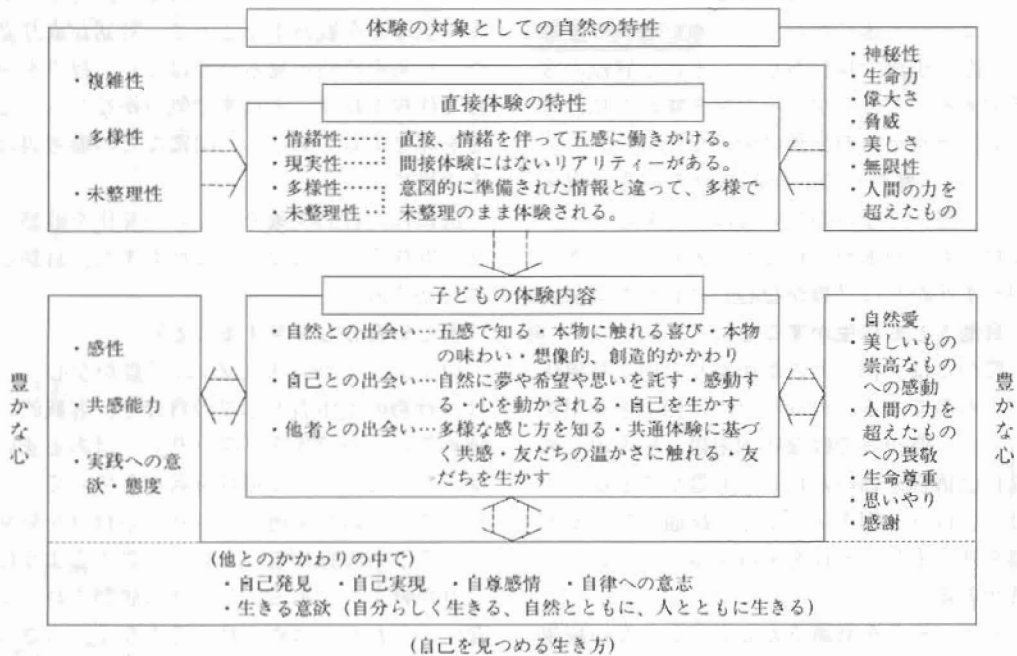


図2 豊かな心と自然体験

かされる子どももいれば、咲いていることにも気づかない子どももいる。同じ環境で生活していても、季節の変化を感じ取る子どももいれば、言われて初めて気づく子どももいる。

身の回りの自然の様子に気づく子どもは、自然という対象を意識し、かかわり合うことを通して、心をより豊かにしていくであろう。また、それは他者とかかわる上での基盤ともなる。鋭敏で柔軟な感性を持ち、他と主体的にかかわり合おうとする精神作用が「豊かな心」と考える(図1)。

図2は、豊かな心と自然体験とのかかわりを図式化したものである。

子どもが直接に触れる自然は、複雑で多様未整理のまま存在する。したがって、子どもは単なる知識としてでなく、自分自身の感性を働かせ、情緒的な面も伴いながら個性的な深い受けとめをすることになる。自然と一対一で、あるいは他者と一緒にかかわることを通して、心の豊かさが、徐々に子どもたち一人ひとりの内面に根ざしていくのである。

指導の構想

本研究は、小学校の先生方の協力を得て、実践的にすすめているが、実践にあたっては次の点を基本としている。

- ① 子どもの日常生活とかかわりの深い身近な自然をとりあげる。
- ② 教科・特別活動・道徳・ゆとりの時間等を活用し、校内及び学校周辺で無理なくできる活動を取りあげる。
- ③ 活動はできるだけ継続的なものになるようにする。
- ④ 子どもの感性に訴え、子どもの個性的な感じ方や気づき、情緒的な反応を大切にす。
- ⑤ 自然と触れ合う活動の中で、自然と出会い、自己と出会い、他者と出会う体験をし、それが共感や意欲・態度まで含んだ心の豊かさにつながるよう、諸活動に関連をもた

せる(図3)。

このように、自然とかかわる体験的な活動を通して、子どもたちが自分の考えや生活にさまざまな影響を受け、生活をより豊かにするような指導計画にしていきたい。



図3 体験活動の指導の構想

実践の中から(ジャガイモの栽培を通して)

第4学年の理科でジャガイモの栽培をする。K校では3月に植え付けをしてから「ジャガイモ君」と呼んで世話をし、観察を続けた。子どもにとって身近なものとしてかわらせながら、自然の豊かさに触れることを大切にした。

観察したことはノートに記録するだけでなく、絵本や創作劇として作品化した。また収穫を祝って「りっぱに育ったジャガイモ、ホッカホカ、パックパク集会」をみんなで計画した。育てたジャガイモをゆでて食べ、劇、歌、クイズなどを工夫して楽しんだ。具体的にここに紹介はできないが、子ども達はジャガイモに心を寄せて育てることができたことを、出し物や絵本から感じ取ることができた。

今後各研究協力員の実践を集約し、子どもの活動の様子や意識調査等をもとに、研究の成果と課題をまとめていきたいと考えている。

「体験的な活動」共同研究グループ

広島市教育センター指導主事 井崎 明
指導主事 吉竹 邦昭

— 教育相談室から —

Q おこたえします A

授業中騒ぐ生徒

Q 中学校2年のA君は、授業中、教師をひやかしたり、指示したことも聞かず騒いだりするので困っています。他の先生の授業でも、同じような状態ということです。担任としてA君によく注意するのですが、いっこうにその態度は改まりません。たびたび、呼んで注意すると、「僕ばかり……」とかえって反抗的な態度を示すこともあります。どのように指導すればよいのでしょうか。

A このような生徒にかかわる際、注意・叱責だけではなかなか効果があがらないようです。「騒ぐ」という表面的な行動だけを押さえようとするのではなく、子どもの行動を通して、一人ひとりのもつ問題の要因や背景を探り、その行動の意味を的確に押さえることが大切です。

授業中騒ぐ子どもの要因や背景としては、「授業がわからない」「級友から疎外される」「教師への不満がある」「家庭での不安がある」など、さまざまなことが考えられます。

また、「騒ぐ」行動には、友だちや教師に「自分の存在を認めてほしい」という願いがこめられています。このような生徒に対しては、次のような対応が必要となってきます。

1 授業場面でのくふう

A君が授業中、少しでも活動できる場面をつくり、級友から認められるようにします。子どもの興味・関心のあるものなどを授業に取り入れ、力に応じた発問を工夫し、学習のつまずきに対して個別的な指導を行うなど、

粘り強く子どもにかかわっていきます。

騒がしいときに「静かにしなさい」と注意するばかりでなく、例えば、「A君、ここはどうなると思う」「何かいい考えでもあるのかな」などと声をかけることも大切です。

2 個別面接の実施

A君との面接や相談の機会をできるだけもち、本人の学習、友達関係など、学校生活での不安や悩み、また、家庭生活での悩みなどに、十分耳を傾けるようにしましょう。そのなかで、教師や学校に対する不満などが出ることもあります。本人の気持ちを否定せず、よく聴いてやるのが大切です。

子どもの気持ちを受け止め、共に考えていこうとする教師の姿勢が子どもに伝わったときに、教師と生徒の間に信頼関係が生まれてきます。

このようにして、A君の心理的安定を図っていくと、本人の行動も変化してくると思います。しかし、騒ぐ行為が続いたり、他に重大な迷惑や危険が及ぶ場合には、教師の毅然とした態度も必要です。その際、生徒との信頼関係ができていない状態では、効果は期待できません。また、A君の行動に関して、家庭での影響が大きい場合には、家庭との連携を図り、協力を求める必要もあります。

以上述べたように、表面に現れた行動だけにとらわれず、子どもの心の内面に目を向けて、かかわっていく姿勢を日頃から大切にしたいものです。

教育実践基礎講座(5)

算数科の授業のまとめ

— 数学的な考え方、関心・意欲・態度を育てるために —

広島市教育センター主任指導主事 民安 和昭

算数の授業の終末段階において「今日は分数のたし算の勉強をしました」「繰り上がりのあるたし算の勉強をしました」に類するまとめに接することがある。

まとめが学習内容の確認のみに終わっては、豊かな発想を生み出す直観力や論理的な思考力を育てたり、数理的な処理のよさがわかり、既習の学習内容や経験を活用する態度を育てたりする上で不十分である。本時の学習が今後の学習に生きて働く力となるためには「何をどのような方法で解決したか」「何が新しい課題として残ったのか」に焦点をあてたまとめが必要である。考え方や今後の課題を明確にすることは、思考力や関心・意欲・態度を育てることと深い関わりのあることである。

このように考えると、まとめの段階は時間的に短くとも、授業の結果が集約される重要な位置を占めている。

○ 数学的な考え方に着目したまとめを

まとめの段階に至るまでには、自力解決や練り上げの場を通して多様なことを学習してきた。

$1\frac{3}{5} + \frac{4}{5}$ の解決過程を例に考えてみよう。 $1\frac{3}{5}$ は1より $\frac{3}{5}$ 大きい。だから、1よりどれだけ大きいかわかれば答がでるはずである。 $\frac{3}{5} + \frac{4}{5}$ は $\frac{7}{5}$ 、1より $1\frac{2}{5}$ 大きいので $2\frac{2}{5}$ である。また、前時の真分数+真分数の学習を生かして $1\frac{3}{5}$ は $\frac{8}{5}$ だから $\frac{4}{5}$ が $(8+4)$ こで $2\frac{2}{5}$ と考えた子どももいたであろう。この授業を「帯分数+真分数の学習をしました」とだけでまとめを終るのは残念である。子どもは答がどれくらいになるか見当をつけ、それを基に解決したり、 $\frac{1}{5}$ を単位にその幾つ分にあたるかで考えたりしている。また、帯分数に直すことをこれまでの学習と関連付ければ、整数の加法の繰り上がりの原理と同じであり、

分母の大きさによって繰り上がりの仕方が違うだけである。計算ができるようになる過程でどのように考えたのかを明確にし、既習事項との関連を図ったまとめをしたい。

このような視点から授業をまとめようとすると、原理・法則に着目した教材研究が必要である。下図は、加法の原理をとらえたものである。



○ 関心・意欲・態度を育てるまとめを

単元が変わらない限り学習内容は連続しており、まとめは次時の学習へのつなぎでもある。本時の問題を解決したことにより、何が新しい課題として残ったのかを明確にしておくことは、意欲・関心・態度を育成するうえで重要である。

例えば、ある授業は「二等辺三角形は、1回折って重なる(2つの辺が等しい)三角形です」で終了し、一方の授業は、これに加え「2回折っても重なる三角形があるのだろうか、あるとすればどんな三角形だろうか」の教師の投げかけで終了したとしよう。比較するまでもなく、後者のような指導を受けると共に、学習の発展の仕方も学ぶことができ、次時に解決したい課題を自らの力で見いだすことができるよう、学年に応じた指導の積み重ねが必要である。

教育センターひろば

教養講座へどうぞ

* 講師 俳優、演出家

よおくら まさかね
米倉 齊加年 氏

絵本「多毛留」「おとな
になれなかった弟たちへ……」ほか

* 演題 「私のメルヘン」

* 日時 平成3年12月5日(木) 14:30～

* 場所 西区民文化センター(定員550名)

* 対象 教職員、社会教育職員



平成3年度研究協力員

教育センターでは教育研究をすすめるに当たって、次の先生方に研究協力員をお願いしています。

平成3年度研究協力員

研究領域	研究協力員氏名	所属校(園)名
学習指導 (体験活動)	野間 淑子	白島小学校
	藤川 博之	祇園小学校
	穂山 和也	原小学校
	高村 朋子	長東西小学校
	仲本 福恵	亀山小学校
	大石 信洋	伴小学校
教育相談 (登校拒否)	松浦 清行	三入東小学校
	西東 優二	船越小学校
	望月 真夫	竹屋小学校
	登山 民夫	牛田小学校
	山下 珠美	牛田新町小学校
	岩本 恭朋	青崎小学校
理科教育	鹿渡 由美子	梅林小学校
	水ノ上 俊一	伴東小学校 口田小学校
教育相談	池田 智子	早稲田小学校
	西井 章司	五日市南小学校
生活科教育	山田 重則	城山北中学校
	筒井 惠淳	亀山中学校
図画工作科 教育	富村 ひとみ	長東西小学校
	杉山 幸子	五日市小学校
幼稚園教育	片田 麻美	安東幼稚園
	田村 美幸	楽々園小学校
幼稚園教育	田川 千鶴子	大町幼稚園
	作間 和恵	真亀幼稚園

教員特別研修生

今年度後期は次の5名の先生方が、それぞれの専門分野で研修を進めておられます。

* 生活科教育：山田明美教諭(安東小)

研修題目：地域とのかかわりを生かした伝承的な遊びの教材化

* 教育相談：勸場啓史教諭(原南小)

研修題目：児童の自己表出を促す教育相談の在り方

* 外国語科教育：原みよ子教諭(三和中)

研修題目：英語科におけるコミュニケーション能力の育成に関する研究

* 生徒指導：美越克己教諭(牛田中)

研修題目：学習意欲を高めるための生徒指導の研究

* 障害児教育：菊一 正教諭(戸坂中)

研修題目：自閉児の対人関係を育てる作業学習の在り方

お知らせ

平成3年12月から第2・第4土曜日が休みになります。みなさんのご理解、ご協力をお願いいたします。

表紙絵 広島市立亀崎中学校長 里本 俊文
題字 広島市立段原小学校教頭 足立 柳子

編集後記

小春日よりが続いています。師走を前にお忙しい毎日と存じます。

今回は、「豊かな心を育てる教育」を特集として取り上げました。今後の指導の充実にご活用ください。